

慶應義塾大学湘南藤沢学会
2011 年度 シンポジウム・研究ネットワーク基金 成果報告

保健医療データ活用のための SPSS & AMOS 実践研究会

中山 直子 (慶應義塾大学看護医療学部)

1. はじめに

本研究会の目的は、保健医療現場におけるデータの分析解析に関する知識、技術の習得を目的とする。講師には、首都大学教授星旦二氏と、高橋俊彦(Ph.D; 首都大非常勤講師)氏をお招きし、全4回の研究会としての講座を開催した。第1回目は、統計解析の基礎講座、2回～4回目は、実際のデータを用いて、SPSSによる集計、Amosによる共分散構造分析の実際を演習にて実施した。研究会開催によって、参加した保健医療に関する研究者、大学院生、現場の地域保健医療職が、データ分析の知識や技術を習得し、それぞれの現場において、データを活用し還元できることが成果として予測される。本研究会の申し込み者数は20名を超えた。

2. 研究会の実施について

研究会は全4回開催した。開催の詳細については以下のとおりである。1回ごとに、研究会の理解度や進め方についてアンケートを実施した。

日 時	内 容	担 当	参加者
第1回目 会議室D 5月21日(土) 16:00~19:00	総論 統計解析の基礎講座、演習	星 先生	19名
第2回目 会議室B 6月 4日(土) 13:30~17:00	Amos 概論、共分散構造分析 手法の使い方・研究の進め 方・考え方講座、演習	高橋先生	12名
第3回目 会議室B 6月18日(土) 13:30~17:00	Amos 各論、ロジスティック 回帰分析概論、平均共分散構 造分析、傾向スコア、演習	高橋先生	14名
第4回目 会議室C 7月 9日(土) 13:30~17:00	各自の研究中のモデル発表 会と相談会 (ゼミ発表形式)	星 先生 (高橋先生)	16名

◆第1回;講師 星 旦二教授

第1回目の参加者は、19名であった。総論として星旦二教授より、統計に関する基本事項などの講義を受け、星旦二先生のデータにて、実際に各自で演習を行った。首都大学東京の大学院生が、初心者の方の支援をしてくれた。

◆第2回;講師 高橋俊彦先生

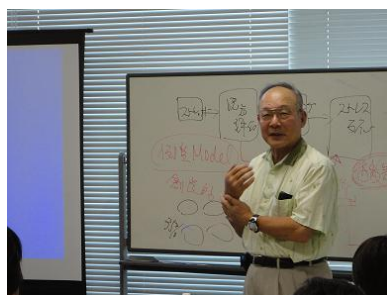
第2回目の参加者は、12名であった。参考図書を提示し、高橋講師の作成した資料をもとに、講義と演習を行った。講義に入る前に、参加者同士の自己紹介を行った。自分の所属以外に、なぜ統計を必要としているか、また、今回参加した動機などについて話してもらった。

◆第3回;講師 高橋俊彦先生

第3回目の参加者は、14名であった。最初、中山の方から、自分の研究データに関する発表を行い、次回4回目に発表する際のポイントなどを説明した。その後、第2回目からの引き続きで、高橋先生からの理論と演習を行った。演習する時間が少々短くなり、内容と時間配分については検討する必要がある。

◆第4回;講師 星 旦二先生 (高橋俊彦先生)

第4回目の参加者は16名であった。今日は高橋先生も参加していただき、研究会参加者の中から5名の方に、自分の研究データ等を用いて、ゼミ形式で発表をしてもらった。発表時間を10分、その後の質疑・ディスカッションを20分、一人30分の持ち時間とした。



3. 今後の研究会継続への展望

本研究会は、慶應義塾大学大学院、筑波大学大学院、首都大学大学院の学生の他、地域職域の保健医療職、大学教員までの幅広い参加者が集まった。それぞれの研究・分析などにおいて、さまざまな苦労や悩みがあることが分かり、さらに本研究会において、さまざまな方と交流を持つことができた。実践的なデータ活用や、統計アレルギーや難民を出さないようにし、現場にあるデータを活用し、よりよい保健活動へ還元するためにも、今後も研究会は継続して実施できるよう運営などを検討して行きたい。

本研究会は、慶應義塾大学湘南藤沢学会『2011年度 シンポジウム・研究ネットワーク基金』の補助を受けて、とても有意義な研究会を実施することができました。感謝申し上げます。

また、講師につきまして、快くお引き受けいただきました首都大学東京大学院の星旦二教授と高橋俊彦非常勤講師に深く感謝申し上げます。最後に一緒に参加していただいた方々の今後の業務や研究に役立つことを祈念して、ここにお礼申し上げます。